

(様式 2)

議事録番号

提出 2015 年 9 月 28 日

会合議事録

研究会名： 企業利用研究会

日 時： 2015 年 9 月 3 日 10:00—12:00

場 所： 川崎市産業振興会館 9 階 第 3 研修室

出席者：(議事録記載者に下線)

巽修平、西原克浩、松井純爾、福田一徳、籠島靖、廣沢一郎、
井端治廣、吉木昌彦、野口真一、上田和浩、堂前和彦、尾角英毅、
林利彦、河原俊雄、光本久司、妹尾与志木、鈴木直、川村朋晃、
臼田宏治、山口聡、高石理一郎、米山明男、山川晃、佐野則道

計 24 名

議題：

1. SPring-8 次期計画に関する事項：国内外の放射光科学のグランドデザインを踏まえた SPring-8 次期計画の位置づけ
2. 登録機関 JASRI が利用促進のために実施する研究開発に関する事項：新分野、新領域に関する研究開発ニーズの収集、また研究開発成果の展開について

議事内容： 議題の展開に先立ち「SPRUC 活動の現状」と「SPring-8 アップグレード計画」について情報共有を図った。これらを受けて討議された内容を以下に記す。

1. SPring-8 次期計画に関する事項

本研究会の会員の大多数は企業に所属しており、各企業の技術課題の解決のために主導的に SPring-8 の専用および共用 BL を利用している。社内の試験法として確立し、SPring-8-II においても継続利用が必須となる既存技術も多々ある。この点において、次期計画に対する産業界利用者の期待は学术界利用者と大きく異なる。また、サンビームや豊田 BL などの産業利用専用ビームラインでは、各々の設備更新計画の策定のために、時期や費用などの情報が必要であるが、現在施設側から提供されている情報では不十分と言わざる

を得ない。具体的な意見として、

- アップグレードによって利用出来なくなる技術についての情報が無い
- BM についての情報が ID に比べて少ない

などの声がある。更にビームライン、実験ステーションレベルでの技術的変更点を明確にするため、標準的な BM/ID ビームラインでケーススタディーを実施することを、施設側に要望する。

2. 登録機関 JASRI が利用促進のために実施する研究開発に関する事項

2-1. 新分野、新領域に関する研究開発ニーズ

具体的な要望として、以下の3点があげられる。

- データ転送技術の高度化： 実験の効率化や自動化に伴い、一課題の実施で得られるデータ量が飛躍的に増大しており、これが実施時のボトルネックになりつつある。
- 検出器の開発体制の強化： 海外の施設に比べ SPring-8 の検出器の開発力は心許ない。放射光技術全体としての国際競争力を維持するためにも、独自技術の検出器があるべき。
- BL 装置の高度化： 共用 BL の各装置の老朽化や陳腐化には、適時的に対応してほしい。

2-2. 研究開発成果の展開

放射光利用が定着している産業分野では成果占有利用が主流となり、SPring-8 の産業利用の成果が見えにくくなっている現状がある。成果占有課題の成果について利用企業が自発的に公開することを促す方策を作してほしい。成果非占有課題の成果のアピールの仕方は、これまでよりも工夫してほしい。また、現状の成果占有と非占有の課題数のバランスが適正と考えるか、適正でないとするならば是正する方策など、施設側で議論を深めてほしい。

3. 今後の検討事項

本会合は第12回産業利用報告会の直前に付帯行事として開催された。本研究会では産業利用報告会の参加者を対象に、上記の議題に対応したアンケート調査を実施した。本議事内容とアンケート結果を併せて、「利用者の動向調査報告書」として提出する。

以上